摘 録

会議名 令和7年度第1回刈谷市歴史博物館協議会
日 時 令和7年5月15日(木) 午後2時30分～午後4時
場 所 歴史博物館 1階講座室
出席者 協議会委員：西宮秀紀(会長)、山本智子、山田孝、真島聖子、
金子一郎、戸田和晃、和田誠、近藤香代子、成田年秀
※堀江登志実委員は欠席(敬称略)
事務局：伊藤部長、石川監、鈴木館長、新田館長代理、鵜飼学芸員、井筒
学芸員、山下学芸員

内 容

1 議題

(1) 令和6年度の状況について〔資料1〕

(A委員) 企画展の担当をする学芸員は良くやっていると思う。アンケートの意見にあったキャプションの問題(高さが低い、文字が小さい、暗く読みづらい等)は改善が難しいと思うが、検討して少しずつ改善してもらえると嬉しい。

昭和100年を記念したミニ展示は大変良い試み。ミニ展示のテーマについて。地区の歴史をまとめる動きが出てきている。博物館ができたことで学芸員の協力を得てできたことだと思う。機会があれば、地区に協力を仰ぎ、展示をしてはどうか。併せて他の地区の歴史をまとめる動きにも支援の態度を示してもらえると嬉しい。

また、すぐに実現できることではないのかもしれないが、知立市歴史民俗資料館と共同で1つのテーマで展示を行う等はできないか。資料の貸し借りなどの交流から始めるなど、難しいかと思うが検討いただきたい。

(B委員) 展示の文量のことについて、フォントや文字の太さで読みやすさを少し改善ができるかもしれない。

(C委員) パネルの高さは車いすの方に合わせて設置しているところもある。ターゲットをどこにするかで解決方法が変わる。また、ポケット学芸員を活用し、より詳しい解説はそちらを見てもらうことで文字を減らすことができる。展示物保護のため、照明は暗くする必要があるが、資料は照明を落とし、パネルは明るく、と細かく照明を設定することでも改善できるかもしれない。

(事務局) フォントに関しては、ポスター等のデザインと連動させているが、字体は広報

物に合わせる必要がないので読みやすさを優先することから検討していきたい。

(D委員) 三河の中の刈谷は尾張と三河の境目という地理的特徴がある。そのなかで尾張との関係性に関する展示があっても良い。子どもも刈谷に愛着があり誇りに思っている。常設展などでそういう展示があると良い。

(E委員) 常設展に反映する、いずれ企画展のテーマにする等、検討は可能か。

(事務局) 常設展や、企画展のテーマとしても検討したい。

(E委員) 刈谷と知立は同じようなところを対象にしている、将来的にはお互い得意なところを補足しあって数年に1度研究や展示を進めていっても良いと感じた。

(A委員) 地区の郷土史をまとめるお手伝いを博物館が行っているので、博物館もその成果を活用させてもらっても良いのではないかと思った。

(E委員) ミニ展示で毎年どこかの地区を取り上げ、積み上げることで、いずれまとめて大きなものになるかもしれない。

(F委員) アンケートによれば刈谷高校や刈谷北高校が100年を超えている。地区の歴史だけでなく、学校のこともテーマとすると歴史博物館に足を運ぶきっかけになる。市民が参加できるミニ展示をすることで、学ぶこともできるし、楽しめる。

(E委員) 各小中学校の歴史を総括することを歴史博物館が支援することも行うと良いかもしれない。本来、学校が作るものだが、博物館が支援をし、1校ずつ進めて全部できると学校史としてまとまるのではないか。

(A委員) 今年度、夏の企画展で戦争を扱うが来年度はすぐ戦後をとりあげてほしい。また、市史で新制中学、新制高校等はとりあげられていないので資料が喪失してしまうのでぜひ取り組んでほしい。

(C委員) アンケートのなかで刈谷の通史がわからないという意見があったと思う。改善は難しいと思うが、導入で通史があり、そのなかで部分を特徴的に取り上げていることが分かるようにすると良い。万燈を知らない人が市内に意外といるのだと感じた。歴史や文化を市民に向けて、市の広報とあわせて広く伝えていくと良いのではないか。

(2) 令和7年度の予定について [資料2]

(C委員) フェイスブック、インスタグラム、X(旧ツイッター)等、SNSはどれが効果的

でどう使っていけばよいか教えてほしい。年齢層によると聞いている。

(事務局) アンケートの結果からは、情報源は館の HP が最も多いと出ている。SNS に関しては使用する年齢層が異なりどれが正解かとは言えないと思う。

(C 委員) X の発信は頻繁に発信しているのか。

(事務局) 今回の企画展に合わせ、情報発信を積極的に行っているところであるが、当館の場合は反響が少ないのが現状。これからどう高めていくかが課題。

(B 委員) X 以外の SNS をやっていないのはなぜか？ SNS は費用がかからないので活用してはどうか。

(事務局) SNS を導入する際に館内で検討した結果、まず X を活用することとなった。SNS は発信頻度が多くないと効果的になりにくいいため、複数の SNS を活用するのではなく、1 つに絞っている。費用がかからない広報ツールであるので、今後活用の幅を広げていく必要があると認識している。

(C 委員) フェイスブックは、残念ながら若い世代はあまり見ていない。そのあたりをカバーするにはどうしたらよいかは検討課題。一方、いいねで反応がすぐわかるので効果的な投稿となるよう工夫していくことができる。

(A 委員) 刈谷偉人伝の上映はどれくらいの人が見ているのか。

(事務局) 数字の把握はしていない。アンケートには歴史ひろばの「刈谷の偉人たち」の視聴コーナーが良かったとコメントがあり、評価されていると認識している。

(A 委員) 「刈谷の偉人たち」の映像は、刈谷城築城 480 周年のときに制作したはず。まだ在庫は残っているか。偉人伝なので人物だけが対象だが、例えば、縄文は面白いものができるのでは。野田雨乞や万燈なんかの映像を使って作品を作っていけると良い。

(事務局) 偉人伝の DVD はまだ販売している。講座室でのビデオ放映は、偉人伝だけでなく、歴史に関係するビデオ広報や昭和 100 年のミニ展示では昭和の刈谷の映像を放映している。現状、偉人伝に続くアニメーションを制作する予定はない。

(G 委員) 毎年教員向けに社会科自主研修を年 3 回、閉館後の時間にやっていただいている。社会科以外の職員にも参加が広がっているので継続をお願いしたい。小中学生が気軽に来館できる交通手段が整っていくと子どもたちのリピーターが増えると思う。

(H委員) 北部、南部は刈谷駅で乗り換えをしないといけない。中学生が行きたいと思うこと、来館するきっかけが何かあると良い。また、土器パズルやすごろく、簡単工作、図書など、小学生が気軽に来て、歴史に触れられるものを充実させてもらえるとありがたい。

(A委員) 茶会を再度やっていただけることがうれしい。来館者の幅を広げる意味でも今後も開催してほしい。

(E委員) 屋外コンセントについて、今まで屋外になかったのか。歴史博物館にキッチンカーは来たことはあるか。

(事務局) 屋外コンセントはない。キッチンカーに電源の提供は不要だが、屋外でテント販売をする場合に電源がないと出店を躊躇するケースがある。キッチンカーは姫たちの想い展のイベントにあわせ1日だけ来たことがある。

現在、市全体でマルシェなどに利用できる場所の提供として、公共空間の活用を紹介するページがあり博物館も掲載しているが、集客が見込めるかという問題もあるため応募がない。近くでは、亀城公園や市体育館のトップリーグの試合開催時にキッチンカーが複数台出ることがある。

(I委員) 北部はこちらへ来る際の交通手段がなく、私も今回初めて来館した。北部や南部からかりまるでここへ来られる環境があればよいと思う。

(E委員) 交通アクセスの問題は開館以来の課題である。

(D委員) 土日だけ、夏休みだけ等、運行等検討できないのではないか。

(事務局) かりまるは有料化の話も出ている。運行には合理性を求められるので、常設で市内各所から博物館へかりまるでアクセスできるようにすることは難しい。企画展やイベント等で、来館の機会を作っていくことが大切と考える。すぐに解決は難しいが、またそういう声があることをいろんな機会で発信していただけるとありがたい。亀城公園や市体育館の近くにあることを活かし、ついでに来館を促すことも取り組んでいく。

(D委員) 企画展の内容はどこでどのように決めるのか。

(事務局) 学芸員の専門性と刈谷にちなんだ内容を考慮し、出た案を学芸員の会議の中で話し合いして決めている。また、戦後80年等、節目に合わせた企画を盛り込んでいる。

子ども向けの説明パネルやクイズラリーを用意し、子どもにも親しめる工夫をしている。

(F委員) 10周年記念企画展を市民に投票して選んでもらうって決めるというのはどうか。市民参加型の企画展が開催できるのではないか。

(C委員) 3年くらいかけて企画展の準備をすると思うので今から10周年に向けて準備することはできるかもしれない。

(A委員) 年3回のうち1回でも市民のニーズに応えた企画展が開催できると良いと思うが、簡単に資料が借りられるわけではないと思うので、あくまで提案として。

(E委員) 可能かどうかという問題があるので、参考にしていただければと思う。

2 その他

<次回の協議会日程について>

(事務局) 次回は令和8年1～2月頃に開催する。

<企画展の見学会について>

会議終了後、時間のある委員に残っていただき、開催中の企画展「木札の世界」の見学会を開催し、学芸員による解説を行った。